

2009年10月27日、公益信託ENEOS 水素基金の第4回助成金贈呈式が開催された

本基金は、水素エネルギー供給に関連する独創的な基礎研究を継続的に助成することで、水素を利用したエネルギーシステムを広く社会に普及させ、将来に亘り持続的に発展し続ける社会を創造することを目指しており、年間総額 5000 万円の助成を約 30 年にわたり安定的に支給するものである。今年度は 40 件の応募から厳選な審査により 6 件のテーマが選考された。

贈呈式では渡会長より「今回の助成対象の研究テーマも水素関連分野における研究促進の起爆剤となる可能性を秘めたものばかりと聞いている。是非、本基金の助成を最大限有効に活用して独創性・新規性に溢れる研究成果を生み出していただき、「低炭素社会」の早期実現に大いに貢献していただきたい」との激励の言葉が述べられた後、太田健一郎運営委員長（横浜国立大学大学院教授）より、助成対象者へ目録が贈呈された。

また、贈呈式に先立ち開催された前年度助成対象者 5 名による成果報告会では、活発な質疑応答が展開された。
(研究開発企画部 R&D 企画グループ 立石 大作)

2009年度研究テーマおよび助成対象者

| 研究部門 | 研究テーマおよび助成対象者 |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 水素製造技術 | 「高速酸素透過膜を利用したマルチフェーエル水素製造システムの開発」 高村 仁（東北大学大学院工学研究科 准教授） |
| | 「改質反応場加熱の新しい理論概念に基づく新世代型構造体改質反応システムの開発」 福原長寿（静岡大学工学部物質工学科 教授） |
| 水素貯蔵・ 輸送媒体に関する技術 | 「速度理論的水素貯蔵の確認」 片桐利真（岡山大学大学院自然科学研究科 准教授） |
| | 「アンモニアを用いた水素貯蔵・製造を目的とするシリカ系触媒膜システムの構築」 都留稔了（広島大学大学院工学研究科 教授） |
| CO ₂ 固定化技術 | 「低分子量有機ゲル化剤を基盤としたイオン液体ゲルの構築と二酸化炭素回収・貯蔵(CCS)技術への応用」 岡本浩明（山口大学大学院理工学研究科 准教授） |
| | 「含窒素かご形化合物を基体とする高効率 CO ₂ 分離材料の開発」 津江広人（京都大学大学院人間・環境学研究科 准教授） |



前年度および今年度助成対象者の皆様とENEOS水素基金関係者の皆様